Sun N1 Service Provisioning System 5.1 リリースノート

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819–4221–10
2005 年 9 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。 HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。©Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. ©Copyright OMRON SOFTWARE Co.,Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。 米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザーインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 Service Provisioning System 5.1 Release Notes

Part No: 819-1656–10

Revision A

Adobe PostScript

051017@13215

目次

はじめに　**5**

1　Sun N1 Service Provisioning System 5.1 の問題　9

アンインストールの問題点　9

Windows Master Server の side-by-side アップグレード後、アンインストールが失敗する (6188943)　9

アンインストールウィンドウに旧バージョンの Sun N1 Service Provisioning System のバージョン番号が表示される (6189043)　9

実行時の問題　10

IBM AIX プラットフォームで `execNative` コマンドをバックグラウンドで実行すると、実行開始までに 10 分以上かかる場合がある (6315401)　10

SUSE Linux 9 上の `/protect/jexec` ファイルの不正な権限 (6313166)　10

ルートコンポーネントがルート以外の `autogen` プランを参照する場合、コンポーネントを削除できない (6306809)　11

Solaris システムで Detail Preflight が失敗する場合がある (6313603)　11

「Check In Current」処理で、この処理をサポートしないコンポーネントについてのエラーが報告されない (5063014)　12

Red Hat Linux Advanced Server 3.0 で SSL を使用する場合にシステムがハングアップすることがある (5084676)　12

通知規則のためにプランの実行速度が遅くなることがある (6176243)　13

Windows 2000 プラグインに関連する問題　13

デフォルト値だけしか持たないレジストリキーリソースは削除できない (5061644)　13

Microsoft の IIS を変更したあとで既定値に戻しても、相違があると報告される (6189034)　13

Windows IIS アプリケーションをアンインストールできない (6197564)　13

BEA WebLogic プラグインに関連する問題　14

EJB コンポーネントがアンインストールされない (5109783)　14

WebLogic Console から WebLogic アプリケーションを削除した場合、スナップショットエラーを表示して比較が失敗する (6186456)　14
比較で、配備されていないコンポーネントについての相違が報告されない (6186457)　15
オンディスクの WebLogic アプリケーションアーカイブの内容変更が比較結果に反映されない (6196108)　15
WebLogic 管理サーバーとの SSL 接続がサポートされない (6203385)　15
各国語化の問題　15
非 ASCII Latin-1 文字による検索パターンが正しく動作しない (6302462)　15
ロケール固有のソートがサポートされない　16

2　ソフトウェアサポートの終了　**17**
現在のリリース　17
今後のリリース　17
universal ユーザーグループ　17

3　マニュアルに関する情報　**19**
『Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイドおよびリリースノート (WebSphere Plug-In 2.0)』　19
マニュアル全体　19
WebSphere 2.0 環境 (タスク) の設定　19

はじめに

『Sun N1™ Service Provisioning System 5.1 リリースノート』では、Sun N1 Service Provisioning System 5.1 のリリース直前までに判明しなかったさまざまな情報 (インストール関連の問題など) を記載しています。

対象読者

このリリースノートは、Sun N1 Service Provisioning System 5.1 をインストールして使用するユーザーやシステム管理者を対象にしています。

関連マニュアル

Sun N1 Service Provisioning System 5.1 をインストールする場合や実際に使用する場合には、必要に応じて次のマニュアルを参照してください。

- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 インストールガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 システム管理者ガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 オペレーションとプロビジョニングガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 プランとコンポーネントの開発者ガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 XML スキーマリファレンスガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 コマンド行インタフェース(CLI) リファレンスマニュアル』

これらのマニュアルの日本語版は、docs.sun.com Web サイト (`http://docs.sun.com/coll/1302.3?l=ja`) を参照してください。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	内容
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。
サポートおよびトレーニング	http://jp.sun.com/supportraining/	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 **P–1** 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% **su** password:
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm *filename* と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャー・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% **grep '^#define ** **XV_VERSION_STRING'**

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

  ```
  machine_name# command y|n [filename]
  ```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

  ```
  $ command y|n [filename]
  ```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

  ```
  # command y|n [filename]
  ```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

第 1 章

Sun N1 Service Provisioning System 5.1 の問題

この章では、すでに判明している Sun N1 Service Provisioning System 5.1 の問題について説明します。

- 9 ページの「アンインストールの問題点」
- 10 ページの「実行時の問題」
- 13 ページの「Windows 2000 プラグインに関連する問題」
- 14 ページの「BEA WebLogic プラグインに関連する問題」
- 15 ページの「各国語化の問題」

アンインストールの問題点

このセクションでは、アンインストールに関連する既知の問題について説明します。

Windows Master Server の **side-by-side** アップグレード後、アンインストールが失敗する **(6188943)**

Windows Master Server の side-by-side アップグレードを行い、即座にアンインストールを試みると、アンインストールは失敗します。アンインストールを確実に行うには、手動の介入とリブートが必要な場合があります。

対処方法**:** Master Server のアンインストールを行う前に Windows コントロールパネルの Services アプリケーションから Master Server サービスを停止してください。アンインストールが完了した時点では、Master Server サービスはまだ残っています。マシンをリブートし、Windows コントロールパネルの Services アプリケーションから Master Server サービスのエントリを削除してください。

アンインストールウィンドウに旧バージョンの **Sun N1 Service Provisioning System** のバージョン番号が表示される **(6189043)**

Sun N1 Service Provisioning System Windows バージョンのローカルディストリビュータまたはリモートエージェントを新バージョンにアップグレードしたあとでそのローカルディストリビュータまたはリモートエージェントをアンインストールすると、アンインストールウィンドウのタイトルに古いバージョン番号が表示されます。

対処方法**:** アンインストールプログラムは正常に動作しています。タイトルの不正表示は無視してください。

実行時の問題

この節では、判明している実行時の問題について説明します。

IBM AIX プラットフォームで **`execNative`** コマンドをバックグラウンドで実行すると、実行開始までに **10** 分以上かかる場合がある **(6315401)**

`execNative` ステップをバックグラウンドオプションを指定して実行する場合、このコマンドはすぐに開始されず、実行開始までに 10 分以上かかる場合があります。

この問題は、オープンファイル記述子の数が 100 万を超えるかまたは無制限の値に設定されている IBM AIX システムで起きます。無制限の場合、約 20 億に相当します。`ulimit -n` コマンドを実行することにより、オープンファイル記述子の最大数に対する現在のソフト制限を決定できます。

対処方法**:** エージェントプロセスを実行するユーザーまたはすべてのユーザーについて、`/etc/security/limits` ファイルの *nofiles* パラメタの値を 2000 に設定してください。再起動後にこの値は残り、マシン上のすべてのユーザーに影響します。

注 **–** *nofiles* パラメタの値は 100,000 を超えないようにしてください。

`/etc/security/limits` ファイルの詳細を参照するには、次の操作を行います。

1. IBM AIX Information Center (`http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/pseries/index.jsp`) に移動します。
2. 検索テキストフィールドに `limits file` と入力します。
3. 「GO」ボタンをクリックします。
4. 検索結果の「`limits File`」リンクをクリックします。

SUSE Linux 9 上の **`/protect/jexec`** ファイルの不正な権限 **(6313166)**

`setuid` ビットを「yes」に設定した SUSE Linux 9 を実行するシステムにリモートエージェントをインストールしたあと、 `/protect/jexec` ファイルの権限が不正になります。

権限は次のとおりです。

```
---x--x---  1 root   other 21864 2005-08-15 03:16 jexec
```

この権限は次のようにすべきです。

```
---s--x---  1 root   other 21864 2005-08-15 03:16 jexec
```

対処方法**:** インストールが完了したあと、次のコマンドを使って手動でファイルの権限を修正します。

```
% chmod 4110 $BASEDIR/agent/bin/protect/jexec
```

$BASEDIR はインストールディレクトリです。

ルートコンポーネントがルート以外の **autogen** プランを参照する場合、コンポーネントを削除できない **(6306809)**

バージョンの異なるコンポーネントで直接実行のコンポーネント手順を実行した場合、コンポーネントを削除できないことがあります。

この状況は、特定の直接実行のコンポーネント手順を 1.0 以外のバージョンのコンポーネントで最初に実行し、そのあとで同じ直接実行のコンポーネント手順をバージョン 1.0 のコンポーネントで実行する場合に起きます。

バージョン 1.0 のコンポーネントまたは最初に実行した直接実行のコンポーネントを削除できません。1 つのバージョンの直接削除も両方のバージョンの一括削除もできません。

注 – 削除に代わる手段として、問題となっているコンポーネントを非表示にして、表示から削除することができます。

対処方法: 次のいずれかの方法を使って、問題を回避します。

- 直接実行のコンポーネント手順は、必ずバージョン 1.0 のコンポーネントで最初に実行します。
- 直接実行のコンポーネント手順をほかのバージョンで実行したら、ルートのコンポーネントでは実行しないでください。

Solaris システムで **Detail Preflight** が失敗する場合がある **(6313603)**

Solaris リモートエージェントで「Detailed Preflight」オプションを選択してプランを実行する場合、プリフライト中にプランが失敗して次のエラーメッセージが表示されます。

```
The system was unable to create VirtualAgent for host xxx. (017009)
Unable to connect to agent at host xxx. (026000)
Unable to create an internal representation of host xxx. (017030)
Unexpected exception thrown on the server-side. (022046)
readdir_r() on "/" failed: "Unknown error [-1]". (025006)
```

対処方法: プランを実行するときに「Detailed Preflight」オプションを選択しないでください。

「**Check In Current**」処理で、この処理をサポートしないコンポーネントについてのエラーが報告されない **(5063014)**

「Check In Current」処理を使用することで、ユーザーは Master Server リポジトリ内のコンポーネントのバージョンを最新状態に維持できます。Master Server は、ソースホスト上のバージョンに照らしてそのコンポーネントのバージョンを確認します。この確認は、前回のチェックイン時に収集されたコンポーネント位置についてのメタデータに基づいて行われます。

「Check In Current」処理は、すべてのコンポーネントタイプに対して行えるわけではありません。一般に、ブラウザインタフェースを使用してブラウズできるコンポーネントタイプは「Check In Current」処理が行えます。

「Check In Current」処理をまとめて行う場合、「Check In Current」処理をサポートしないコンポーネントタイプを選択すると、エラーが表示されないまま処理が完了します。サポートされていないコンポーネントタイプについては、「Progress」ダイアログボックスに結果が何も表示されないこともあれば、履歴データとして現れることもあります。

対処方法**:** 回避策はありません。

Red Hat Linux Advanced Server 3.0 で **SSL** を使用する場合にシステムがハングアップすることがある **(5084676)**

Sun N1 Service Provisioning System を Red Hat Linux Advanced Server 3.0 で稼働させている場合、Secure Socket Layer (SSL) 接続を使用するとシステムがハングアップすることがあります。

SSL は、`/dev/random` を使用して乱数を生成する SecureRandom を使用します。Red Hat Linux Advanced Server 3.0 には、`/dev/random` のエントロピ収集を妨げるというバグがあります。十分なエントロピが収集されないと `/dev/random` は乱数を生成しないため、`/dev/random` からランダムデータを読み取ろうとしてアプリケーションはハングアップします。

対処方法**:** 次の回避策の中から 1 つを選択します。

- Red Hat プランに Update 3 のパッチを含めて、この問題を修正する。Red Hat のパッチが提供された時点で、パッチをシステムに適用します。Red Hat パッチの詳細は、`http://bugzilla.redhat.com/bugzilla/show_bug.cgi?id=117218` を参照してください。
- 接続タイプとして SSL を使用せず、TCP/IP または SSH を選択する。
- `/dev/random` を削除し、代わりに `/dev/urandom` に対するシンボリックリンクを使用する。`/dev/urandom` は `/dev/random` よりも安全性に劣りますが、Red Hat Linux Advanced Server 3.0 上でプロビジョニングシステムが SSL 接続を試みる際にシステムのハングアップは発生しません。

通知規則のためにプランの実行速度が遅くなることがある (6176243)

基準がわずかしか存在しないか、あるいはまったく基準が含まれない通知規則を作成すると、プランの実行速度が遅いように見えることがあります。プランの実行が遅いのではく、プラン結果の表示が遅いという可能性があります。

対処方法: 通知規則を作成するときにできるだけ多くの基準を使用します。通知規則の基準を増やすと、ネットワーク上でプロビジョニングシステムが送信する通知電子メールの数が減ります。通知電子メールの数が少なくなると、プラン結果の表示が妨げられる可能性が低くなります。

Windows 2000 プラグインに関連する問題

この節では、Windows 2000 プラグインの既知の問題について説明します。

デフォルト値だけしか持たないレジストリキーリソースは削除できない (5061644)

タイプがレジストリキーである単一リソースを持つコンポーネントを作成できます (キャプチャするエントリは単一のデフォルト値となる)。しかし、付随するレジストリキーを指定せずにその値は配備できても、そのアンインストールや削除はできません。パスが無効であることを知らせるメッセージが表示されます。

対処方法: キャプチャするレジストリキーに含まれる値がデフォルト値のみにならないようにしてください。(キーとデフォルト値を含めるなど)。

Microsoft の IIS を変更したあとで既定値に戻しても、相違があると報告される (6189034)

IIS 設定のスナップショットを含む「モデルとインストール」タイプの比較を行う場合、ターゲットサーバー上で IIS 設定をいったん変更し、そのあと元の値に戻すと、相違がまったくないにもかかわらず、比較結果に相違が報告されることがあります。特に、親ノードから継承されたメタベースプロパティ (Web サイトの読み取り / 書き込み許可やデフォルトのドキュメント設定など) ではこのような現象が発生しがちです。

対処方法: このようなケースで報告される相違は無視してください。

Windows IIS アプリケーションをアンインストールできない (6197564)

Windows IIS アプリケーションをアンインストールする場合、Master Server ブラウザインタフェースはアンインストールが正常に完了したというメッセージを表示します。しかし、COM+ アプリケーションは完全には削除されていません。COM+ アプリケーションは、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」内に残ったままとなります。

対処方法: 残った COM+ アプリケーションを手動で削除してください。

この問題を防ぐには、アプリケーションのインストール時に `shutdownDelaySecs` 変数の値を増やしてください。

BEA WebLogic プラグインに関連する問題

この節では、WebLogic プラグインの既知の問題について説明します。

EJB コンポーネントがアンインストールされない (5109783)

WebLogic で管理された複数の仮想サーバーに配備されている EJB コンポーネントに対してデフォルトのアンインストール手続きを実行し、それらのサーバーの 1 つだけをアンインストールの対象として選択した場合、EJB コンポーネントがそのサーバーからアンインストールされたようには見えません。

しかし、アンインストール後、EJB をアンインストールした管理対象サーバーの WebLogic コンソール上のタブをクリックすると、EJB がもはや存在しないことが正しく報告されます。また、EJB タブをクリックすると、EJB がアンインストールされた管理対象サーバーでは現在 EJB は使用されていないことが報告されます。

しかし、EJB タブでは EJB がその管理対象サーバーに配備されていると報告されます。

管理対象であるすべてのサーバーから EJB をアンインストールすると、EJB は WebLogic コンソールから正しく除去されます。

対処方法**:** WebLogic プラグインは正常にアンインストールされています。不正表示は無視してください。

WebLogic Console から WebLogic アプリケーションを削除した場合、スナップショットエラーを表示して比較が失敗する (6186456)

WAR ファイルと Web アプリケーションの設定が登録されている Web アプリケーションコンテナを含む WebLogic Web アプリケーションを配備し、スナップショットを含め、その後 WebLogic Console から Web アプリケーションを削除した場合、Web アプリケーションコンポーネントについて「モデルとインストール」タイプの比較を行うと、次のエラーが表示されます。

```
Could not complete operation on webapp domain.
No such webapp exists on domain /domain/. (310101)
```

この比較では、モデルと、サーバーに実際にインストールされているものの相違が報告されるべきですが、比較は失敗に終わります。

対処方法**:** 回避策はありません。

比較で、配備されていないコンポーネントについての相違が報告されない **(6186457)**

管理対象サーバーまたはクラスタに配備されている WebLogic WAR または EJB コンポーネントを WebLogic Console を使用して削除しても、WebLogic Console にはその管理対象サーバーまたはクラスタで WAR または EJB コンポーネントがまだ使用されていると報告されます。このため、管理対象サーバーまたはクラスタの「モデルとインストール」タイプの比較を行なっても、相違が報告されません。「モデルとインストール」タイプの比較では、WebLogic Console がチェックされるため、使用中のアプリケーション (ターゲットとされたアプリケーション) は配備されているものとして報告されます。

対処方法**:** 回避策はありません。

オンディスクの **WebLogic** アプリケーションアーカイブの内容変更が比較結果に反映されない **(6196108)**

Sun N1 Service Provisioning System 5.1 を使用して WebLogic アプリケーションをインストールし、その後管理サーバー上のオンディスク WAR アーカイブの内容を変更した場合、比較結果にこの変更が報告されません。構成に変更を加えた場合には、この問題は発生しません。

対処方法**:** 拡張機能である generate と prepare を使用することで、比較作業をカスタマイズし、比較を実際に行う前にオンディスクアーカイブをあらかじめ処理することができます。このようなカスタマイズは、高度なスクリプト処理が必要になることがあります。

WebLogic 管理サーバーとの **SSL** 接続がサポートされない **(6203385)**

Sun N1 Service Provisioning System 5.1 で WebLogic 管理サーバーを設定する際に「Secure」チェックボックスをクリックすると、SSL 使用した接続の設定が試みられます。この選択では、WebLogic 管理サーバーへのアクセスを要求する操作を試みるとエラーが発生します。

対処方法**:** WebLogic 管理サーバーとの接続は、SSL 接続を要求するように設定してください。「Secure」チェックボックスは選択しないでください。

各国語化の問題

この節では、英語ロケール以外で Sun N1 Service Provisioning System 5.1 を使用する際に発生する問題について説明します。

非 **ASCII Latin-1** 文字による検索パターンが正しく動作しない **(6302462)**

Latin-1 ロケール環境では、検索パターンに非 ASCII 文字を使用しないでください。たとえば、ドイツ語のウムラウトやフランス語のアクサンなどです。検索操作を実行したときに、期待した一致結果が表示されない場合があります。

対処方法**:** Latin-1 ロケールのユーザーは、検索コマンドの入力に非 ASCII 文字を使用しないでください。非 ASCII 文字を使用すると、期待した結果が得られない場合があります。このようなロケールでは、ASCII 文字だけを使用してください。

ロケール固有のソートがサポートされない

Sun N1 Service Provisioning System 内の文字ベースのデータは、標準の辞書目録を使用してソートされます。ロケール固有の照合はなされません。したがって、アクセント記号付きの文字は、同文字のアクセント記号なしのものと同じ場所には表示されません。

第 2 章

ソフトウェアサポートの終了

この章では、サポートが終了したソフトウェアを示します。

- 17 ページの「現在のリリース」
- 17 ページの「今後のリリース」

現在のリリース

Sun N1 Service Provisioning System 5.1 リリースで削除された機能はありません。

今後のリリース

次の機能は、Sun N1 Service Provisioning System の今後のリリースではサポートされなくなる可能性があります。

universal ユーザーグループ

`universal` ユーザーグループは、Sun N1 Service Provisioning System の今後のリリースではサポートされなくなる可能性があります。`registered` ユーザーグループを使用すれば、同等の機能が得られます。 `registered` ユーザーグループの詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.1 システム管理者ガイド』の「registered ユーザーグループ」を参照してください。

第 3 章

マニュアルに関する情報

この章ではマニュアルに関する既知の問題について説明します。

『Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイドおよびリリースノート (WebSphere Plug-In 2.0)』

この節では、『Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイドおよびリリースノート (WebSphere Plug-In 2.0)』の特定の章への修正について説明します。

マニュアル全体

次のテキストが出てきた場合はすべて、バージョン 2.0 ではなく、バージョン 5.1 と読み替えてください。

- WebSphere 2.0 アプリケーションサーバー
- WebSphere 2.0 インフラストラクチャー
- WebSphere 2.0 ソフトウェア
- WebSphere 2.0 環境

WebSphere 2.0 環境 (タスク) の設定

「JDBC Provider コンポーネントをインストールする」の手順 7 のあとの文を次のように修正してください。

次のいずれか 1 つのホストに JDBC Provider コンポーネントを割り当てます。